

GASTEC

No.3M

Instructions for use (IM003MJ1)
Ammonia Detector Tube
取扱説明書
アンモニア検知管

安全にお使いいただくために

使用前に、本書及び検知管式気体測定器の取扱説明書をお読み下さい。

△注意	<p>けがの防止のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検知管の両端を折り取る時、目から遠ざけて下さい。 ・検知管の切り口、かけら、破損したときの充てん剤に素手で触れないで下さい。
△注記	<p>性能維持、信頼性確保のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガステックの気体採取器(100ml)を使って測定して下さい。 ・温度(検知管) 0～40℃の範囲で使用して下さい。 ・相対湿度 0～90%の範囲で使用して下さい。 ・共存ガスの影響を受ける場合があります。干渉ガスの項を参照して下さい。 ・検知管の保管条件及び有効期限は箱に表示されています。

適用範囲

空気中及び工業ガス中のアンモニアの測定に使用して下さい。

仕様 (性能向上のために仕様や外観などは変更することがあります。)

測定範囲	10～50ppm	50～500ppm	500～1000ppm
吸引回数 (n)	2～5回	1回(基準)	1/2回
吸引補正係数	1/2～1/5	1	2
吸引時間	約1.5～約4分	約45秒	約25秒
検知限度	2 ppm (5回吸引)		
変色	紫色 → 黄色		
反応原理	アンモニアは検知剤と中和反応して指示薬は黄色を呈する。		

環境の影響

温度：影響ありません。

湿度：影響ありません。

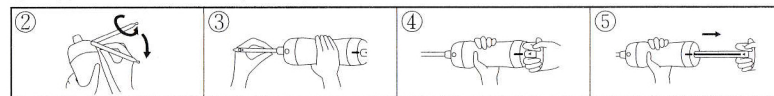
気圧：1気圧(1013hPa)に対し±10%を超える場合、次式により補正して下さい。

$$\text{読み値(ppm)} \times [1013(\text{hPa}) \div \text{測定点の気圧(hPa)}]$$

測定手順 (検知管式気体測定器の取扱説明書を参照して下さい。)

① 両端の折れてない検知管を採取器につなぎ、採取器の気密性を確かめておく。

- ② チップブレーカで検知管の両端を折り取る。
- ③ 検知管の矢印(G)を採取器側に向け、採取器に取り付ける。
- ④ ハンドルを最後まで押し込み、ガイドマークを合わせる。
- ⑤ 一気に引き固定させる。その位置で約45秒待ち、吸引終了を確認する。
- ⑥ 50ppm以下を測定する場合、最低目盛に達するまで最大吸引回数の範囲内で続けて④と⑤の操作を1～4回繰り返す。変色層が500ppmを超えた場合、新しい検知管を用意して1/2回(50ml)吸引する。
- ⑦ 変色層の長さから目盛を読む。
- ⑧ 補正が必要な場合、吸引、気圧の順に読み値にそれぞれの係数を掛ける。



許容濃度：25ppm(2009年)

TLV-TWA：25ppm(2009年)

干渉ガス

ガス名	共存濃度	干渉	単独の場合
二酸化炭素	1%以上	-誤差(20%)	
ジアミン類	1/8倍以上	+誤差	黄色に変色
モノアミン類	1/15倍以上	+誤差	黄色に変色

この干渉ガスの表は、基本的に測定ガスと同等の濃度域において個々の共存ガスの干渉を表したものです。したがって表に記載のない物質または特別な条件の中には影響を及ぼす可能性があります。使用の際に影響があると思われる場合には弊社までお問い合わせ下さい。

この検知管で測定できるガス

濃度は検知管の読み値に換算係数を掛けて求めて下さい。

ガス名	換算係数	吸引回数 (n)	測定範囲 (ppm)
トリメチルアミン	0.5	1	25～250

換算で他のガスを測定する場合、固定の換算係数や換算スケールを用いる関係上、一般の検知管と同等な精度が得られない場合があります。

従いまして、換算により得られた測定値は参考値としてお取り扱い下さい。尚、一般の検知管と同等の精度を希望される場合は、お手数ですが弊社にお問い合わせ下さい。

廃棄

この検知管には有害物質を含んでいません。一般廃棄物、もしくは産業廃棄物の“ガラス及び陶磁器くず”として廃棄して下さい。

保証とアフタサービス

- 万一、品質に不都合な点がありましたら、弊社にお問い合わせ下さい。
- ガス測定、品質に関する質問をお気軽にお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先：株式会社 ガステック 営業本部
〒252-1195 神奈川県綾瀬市深谷中八丁目8番6号

TEL：0467(79)3911 FAX：0467(79)3979

ホームページアドレス：<http://www.gastec.co.jp/>